



産業医 田名 毅
首里城下町クリニック

認知症について 知ろう

産業医だよりでは、毎月私のクリニックで行っている 地域むけ医療講演会 YouTube 配信の内容を要約してお伝えしています。今月は「認知症について知ろう」というタイトルで、天久台病院 院長 平良 直人 先生にご講演いただきました。以下に配布資料からご紹介致します。

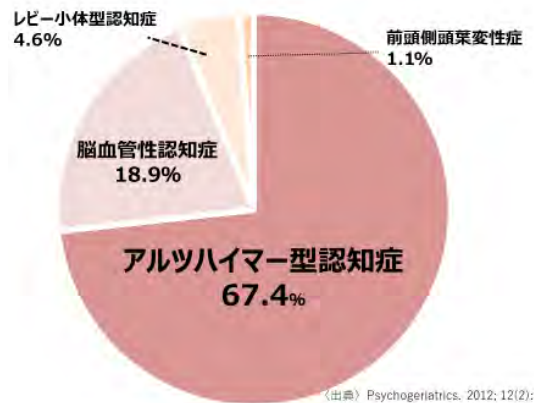
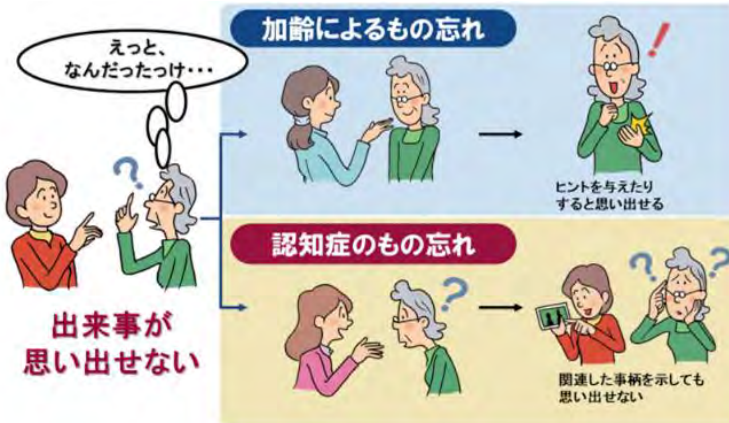
1. 認知症を理解する

認知症は本人自身はもちろん支える家族にとっても大変な病気です。本人の想いを理解する対応がとても大事になります。“どんな人だったのか？”“何をしようとしているのか？”“どうする？の前になぜ？”そして、自分にゆとりを持ち、未来を創造し備えることが重要です。

2. 加齢による物忘れと認知症

認知症は、関連した事柄(ヒント)を示しても思い出せない特徴があり、認知症をひき起こす病気の頻度は、アルツハイマー型が全体の7割弱、次いで脳血管性が2割弱、そして、レビー小体型、前頭側頭葉変性症となっています。

3. 認知症の有病率



4. 物忘れの症状と心と行動の症状

脳機能の症状

理解や判断がうまくできなくなる

- ・ 忘れっぽい 覚えにくい
- ・ 判断がうまくできない
- ・ 見当がつけられない
- ・ 言葉が出にくい 理解しにくい
- ・ うまく行えない
- ・ 認識がうまくできない
- ・ 順序だててできない

こころと行動の症状

- ・ 気分が落ち込む
- ・ 元気がない
- ・ 道に迷う 帰りたがる
- ・ 眠れない
- ・ 怒りっぽい
- ・ 思い込んで聞かない
- ・ 幻が見える

など



記憶障害：わすれっぽい 覚えにくい

見当識障害：見当がつけられない

病初期は近時記憶障害があらわれる

最近の出来事が思い出せない、新しいことが学習できない
昔の記憶は病気が進行するまで保たれる

- 約束や用件を忘れる
- 一度話した内容を忘れて何度も同じ話を繰り返す
- 定期的に飲んでいる薬を飲み忘れる
- 鍋を火にかけてたことを忘れて鍋を焦がしてしまう
- 食事をしたばかりなのに、食事はまだかと聞く
- レストランで食事をした体験そのものを覚えていない



日時や場所、周囲の状況や人物などを正しく認識できない
時間→場所→人物の順番に障害されることが多い

- 日付けを何度も確認する
- いま何時ごろか分からない
- 今の季節(春夏秋冬)が分からない
- 自分がどこにいるのか分からない
- 隣にいる人は誰か分からない

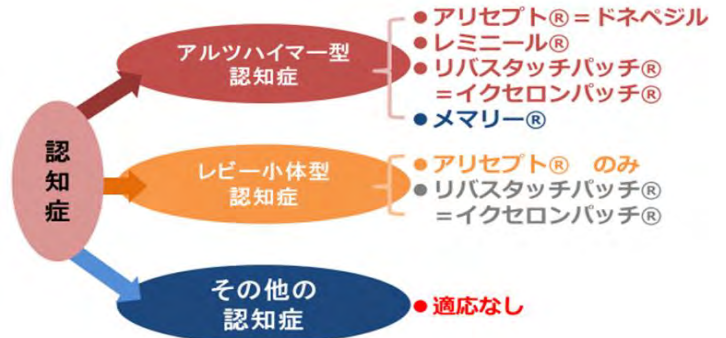


5. 認知症に気づくポイント

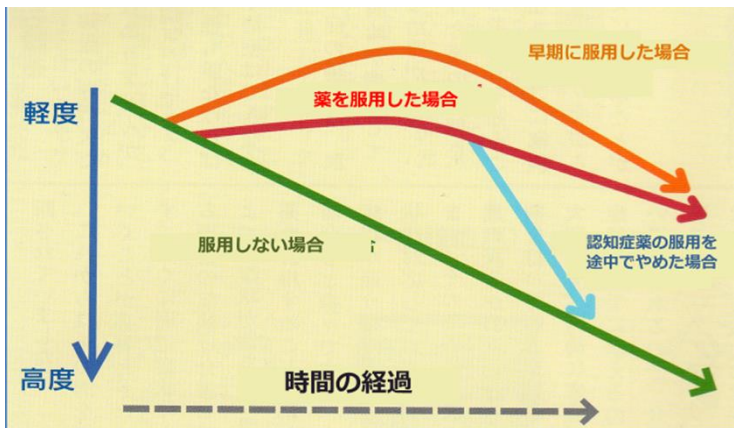
- 今日の年月日や曜日がわからない。
- 今何時頃かわからない。
- 少し前のことや、1～2週間前に話したことを全く覚えていない。
- 同じことを何度も言ったり、会うたびに同じ内容の話をする。
- 使い慣れた単語が出てこなく、代名詞が多い。
- 話の脈絡をすぐに失う。
- 質問されたことと違うことを答える。
- 話のつじつまを合わせようとする。
- 家族が同席していると、聞かれるたびに家族の方を向く。



6. 進行を遅らせる治療について



7. 認知症の薬の効果と認知症医療における基本的な考え方



病気に合った薬を使いながらその方の状態にあった介護サービスを受けることで症状の進行を緩徐にすることができます。
認知症医療における基本的な考え方は、早期診断・早期対応を軸に「本人主体」を基本とした医療・介護等の連携によって認知症のステージ・容態の変化に応じ、もっともふさわしい場所で医療や介護等が提供される仕組の実現にあります。

8. 症状への対応

物盗られ妄想への対応

記憶障害による強い不安や寂しさが原因、身近な家族が“犯人”になることが多い

- まずは本人の訴えを聞く、否定しない
- 一緒に探す、普段からしまう場所を確認しておく、それとなく本人が見つげられるようにする
- 「犯人役」の家族だけでは難しい、協力者を得る
- 頻繁に起こると負担は大きい協力者を得て、本人を突き放さないよう、毎日少しずつでも関わる
- 介護する側の発想の転換と気分転換が大事！



徘徊への対応

記憶障害や見当識障害、不安や混乱、恐怖や寂しさなどが原因・背景～仕事や長年続けてきた習慣、子供の世話、今いる場所から逃げたいという気持ちから起こることもある

- できるだけ自由に、但し安全性の確保を同時に
- できるだけ一緒に歩き、見守る
- 本人なりの理由や目的を探り、一日の過ごし方の工夫をする(趣味や特技を活かしたアクティビティ)
- 本人の出かける先や隣近所に予め協力を依頼(GPSなどの徘徊探索システムの利用、徘徊SOSネットワークが普及している地域もある)
- 早めに地域包括支援センターや行政窓口へ相談する



さいごに、天久台病院にある認知症治療病棟(50床)、介護老人保健施設パークヒル天久、高齢者複合施設うえの家、介護付き有料老人ホーム天久ヒルトップの紹介があり、医療と介護の機能の違いと連携について、また県内の認知症医療機関の紹介がありました。



第 230 回首里城下町クリニック地域むけ医療講演会

テーマ：『リウマチ治療 経済学』

YouTube 配信

～リウマチ外来受診や治療にあたりコスト面で不安に思っている患者さんへ～』



日時：令和5年8月9日（水）午後7時～配信

講師：首里城下町クリニック 第二院長 比嘉 啓

その他クリニックに関しては HP をご覧ください <http://www.shuri-jc.jp>

首里城下町クリニック『働く人健康支援室』は、



産業医・内科医
高血圧が専門です
田名 毅

あなたの **相談窓口** です！

相談窓口

産業医は、あなたの職場とそこで働く人々の心とからだの健康を支援します。

- ★訪問日を設けている事業所の職員は、お気軽に訪問日をご活用下さい。
- ★クリニック内の『働く人健康支援室』では健康相談を行っています。
事前にお電話の上、いらしてください。
- ★クリニック内で産業医との面談は診療の合間となりますが可能です。
事前にお電話くださり働く人健康支援室で“産業医との面談”とお声掛けください。診察や検査の必要がない限りは無料です。

★その他、電話やメール相談も随時行っています。



保健師・産業カウンセラー
キャリアカウンセラー CDA
認定産業看護師
公認心理士 田名彩子



保健師・産業カウンセラー
キャリアカウンセラー CDA
與儀雅代



連絡先

首里城下町クリニック 働く人健康支援室
098-885-5000

携帯 080-4312-9200(田名彩子)
メール sien@sjc.dr-clinic.jp(働く人健康支援室)

プライバシーは守ります。
お気軽にご利用下さい！